2014 年 度 入 学 試 験 問 題

世 界 史 B

（試験時間　13：15～14：15　60 分）

1．この問題は，入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ，解答してください。

2．解答用紙は，記述解答用紙とマーク解答用紙の 2 種類がありますので注意してください。

3．解答は，必ず解答欄に記入してください。なお，解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。

4．解答は，**HB**の鉛筆またはシャープペンシルを使用し，訂正する場合は，プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に，マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また，折りまげたり，汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。

5．解答用紙には，受験番号と氏名を必ず記入してください。

6．マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は，コンピュータ処理上非常に重要なので，誤記のないよう特に注意してください。

I　次の文章を読んで，下記の設問に答えなさい。(34点)

現在，党員8000万余名を有する巨大な政党である中国共産党の歴史は，そのまま苦難と栄光に満ちた現代中国の歴史そのものである。

中国共産党は1921年に，コミンテルンの指導の下に上海でわずか50余名で成立した。その創立者の一人には，北京でマルクス主義研究会を設立し，後に張作霖に捕らえられて処刑された［　A　］がいた。中国共産党の成立前には，日本から強要された二十一カ条要求(1)に怒った学生らの抗議運動に端を発した五・四運動がおこり中国社会主義青年団が成立するなど，反帝国主義，反封建主義の機運が高まっていたのである。

中国共産党成立の中心人物で初代委員長でもあった［　B　］は，1915年に『青年雑誌』(後に『新青年』と改称)を創刊し，欧米の近代的な思想に基づいて旧来の儒教思想や制度を鋭く批判した。『新青年』を中心に展開された新文化運動は，『文学改良芻議』で難しい文語体ではなくやさしい口語体で表現するべきことを主張した［　C　］や，新文学の嚆矢となった『狂人日記』を発表した［　D　］らの活躍で，文化思想面での近代化の出発点となった。

一方，孫文は1914年に東京で秘密結社の中華革命党を組織し，五・四運動の影響を受けて，1919年にこれを中国国民党と改称した。

中国共産党と中国国民党は，抗日戦争を戦うなかで二度にわたる国共合作をおこなった。第一次国共合作は，1923年におこなわれた孫文とヨッフェの会談で確認され，翌年広州で開かれた中国国民党第1回全国代表大会で正式に決められた。その方針は，連ソ・容共・［　E　］で，ここにもコミンテルンの強い指導があった。辛亥革命をはじめ，革命を牽引してきた孫文が1925年に病死すると，その直後に［　F　］運動がおこって反帝国主義運動は全国的なひろがりをみせた。孫文の後を継いだ蔣介石は，共産党勢力の拡大を嫌って1927年に上海でクーデタをおこし，多数の共産党員を殺害し，国共合作を崩壊させた。これにより，蔣介石に対する地主や浙江財閥，帝国主義諸国の評価は高まった。蔣介石は同年，南京国民政府を樹立し，翌年主席となった。

一方，中国共産党は上海クーデタの後，同年に南昌で蜂起して中国共産党の軍隊で

ある紅軍を組織し，湖南省と江西省にまたがる [G] を革命根拠地として勢力の拡大をはかった。1931年には江西省南部の瑞金を首都とする中華ソヴィエト共和国臨時政府をつくった。しかし，近代的な装備をそなえた国民党軍による数次にわたる圧迫に堪えかねた共産党軍は，1934年，ついに首都の瑞金を手放し，陝西省の延安へと大移動を決行するのである。これは1万2000キロにもおよぶ過酷な長征（大西遷）であった。1935年，その中途の貴州省の [H] で開かれた拡大政治局会議で，毛沢東がはじめて党の主導権をにぎった。同年8月には，毛沢東は日本帝国主義の侵略に対して，内戦の停止と抗日民族統一戦線の結成を呼びかけた。

翌1936年末，共産党軍の討伐のために西安に赴いていた蔣介石は，部下の [I] に捕らえられ，共産党討伐を中止し，一致して抗日に立ち上がるように要求された。この西安事件をきっかけに第2次国共合作が成立した。共産党の軍隊は蔣介石の統率下に入って [J] と改称され，共産党と国民党が日本軍の侵略に対して協力して戦う民族的組織である抗日民族統一戦線がここに結成された。

1937年7月，北京郊外の [K] でおこった日本との軍事衝突をきっかけに本格的な日中戦争が始まった。同年末には首都南京は早くも日本軍に占領され，国民党政府は武漢へ移動した。だが，ここも1938年10月には陥落したため，さらに奥地の [L] へ移って抗日戦争を継続した。このころ，北京などの学生や知識人は，日本軍占領下での生活を放棄して共産党の革命根拠地である陝西省の延安へ，あるいは雲南省昆明へと，民族大移動とでもいうべき大きな行動をおこした。北京大学や清華大学などが昆明で創設した西南聯合大学は，当時中国最高の国立大学であった。

1945年8月，日本はポツダム宣言を受諾し，同年9月に降伏文書に調印して，第二次世界大戦は終了した。第二次世界大戦が終了すると戦後の冷戦の始まり(2)を背景に共産党と国民党の内戦が勃発した。足かけ5年にわたるこの戦いは，圧倒的な数の農民の支持を得た共産党軍が豊富な近代兵器をもつ国民党軍を破った。[M] 年10月1日，毛沢東が天安門楼城で中華人民共和国の成立を宣言し，国共内戦に敗れた国民党は台湾に逃れて中華民国政府を樹立し，大陸侵攻を宣言した。蔣介石は西安事件をおこした [I] を台北に軟禁して終生許さなかったのは有名である。

これ以降，大陸と台湾は多くの問題をかかえながら現在に至っている。

【設問Ⅰ】 [A] ～ [M] に入る最も適当な語または数字を，**記述解答用紙**に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 波線部の(1)と(2)に関する以下の問の答えを，**記述解答用紙**に記入しなさい。

問1 (1)に関して，(a)この要求をおこなった日本の内閣の名と，(b)日本政府の強硬な要求に屈して受け入れた中国政府の名を書きなさい。

問2 (2)に関して，国共内戦当時の(a)アメリカ合衆国大統領の名と，(b)ソ連の共産党書記長の名を書きなさい。

II　次の文章を読んで，下記の設問に答えなさい。(34点)

15世紀から18世紀にかけてのヨーロッパは，封建領主や教皇権の衰退，各国間の覇権争いなどを経て，徐々に主権国家体制が確立していった時期である。主権国家は，まず絶対王政を確立し絶対君主が支配した領域国家としてその姿を現した。

イベリア半島では，15世紀末にレコンキスタ（国土回復運動）により絶対王政を確立していったスペインが，ポルトガルとともに大航海時代をリードし，貿易の独占や植民地経営で繁栄をきわめていた。この両国は，教皇アレクサンドル6世が定めた教皇子午線を無効にし，子午線の位置をより西方に移動させる［　A　］条約を1494年に結ぶことによって，両国の勢力境界線を設け世界を二分割した。

こうしたスペインとポルトガルに対し，16世紀末になると，イギリス，オランダ，フランスの3カ国が異議申し立てをおこない，とりわけアジアへの進攻を強めていた［　B　］を非難した。なかでも，喜望峰経由で東インドとの貿易を強めていたオランダは，東インド貿易に従事していた会社を束ね，1602年，連合東インド会社を設立した。同社は，香辛料の生産地であったインドネシアを重視し，ジャワのバタヴィア（現在のジャカルタ）を拠点に香辛料貿易をほぼ独占することに成功した。当時のオランダは貿易の独占だけでなく，国内経済も活況を呈し，ライデン周辺の毛織物工業，ホラント州の造船業，デルフトの陶器業などが発展した。また，当時のアムステルダムは，商業と金融の世界的中心地であった。こうした国内外の経済発展は，数多くの商人貴族をアムステルダムに生み出した。このオランダの最盛期に，オランダ画派を代表する画家として有名なライデン出身の［　C　］は，「夜警」などの作品の中で，当時のオランダの繁栄を担った人々の肖像画や日常生活を生き生きと描いた。絶対王政が強まるヨーロッパにあって，オランダは自由な市民国家としての繁栄を謳歌した。

オランダと同様に，イギリスも，1600年に［　D　］の特許状により喜望峰からマゼラン海峡に至るアジア全域での貿易独占権，および外交や軍事に関する権限までもが与えられたイギリス東インド会社を設立した。しかしながら，1623年にモルッカ諸島（香料諸島）で起こった［　E　］事件により，オランダによってモルッカ諸島から追放され，この事件を機にイギリスはカルカッタを拠点にインド支配を強めて

いった。

他方で，モルッカ諸島からイギリスを追放したオランダは，1652年にはアフリカ南端にケープ植民地を設けることにより，ヨーロッパ・アジア間のインド航路も支配し，国際貿易における競争力を圧倒的なものにしたかにみえた。しかしながら，17世紀後半になると，アジアからヨーロッパに持ち込まれる東方物産に変化がみられるようになった。香辛料の人気が徐々に弱まり，それに代えて茶，コーヒー，[F]などの人気が高まったのである。この変化は，オランダにとっては競争力の低下を意味した。それとは反対に，[F]の人気の高まりと取引量の増大は，イギリスに商品開発や技術革新の機運をもたらし，産業革命の一因ともなった。

また，ヨーロッパ諸国は，東方との交易にメキシコ産や日本産の[G]を利用した。

1643年にフランス国王となった[H]は，「太陽王」の異名の通りフランス絶対王政①の象徴的存在となった。この国王は，1682年にパリ郊外にバロック様式の壮麗な[I]宮殿を建設し，絢爛豪華な宮廷政治をおこない，ヨーロッパの他の宮廷生活様式の模範となったことでも知られている。

この国王による政治の特徴として，国王の権力は神から授けられたものであるがゆえに人民や議会からの制約を受けるものではないとする[J]説に依拠した政治をおこなったことがあげられよう。この説は，もともと16世紀のフランスの思想家ボーダンが記した『国家論』で主張されたものであったが，[H]に仕えた神学者ボシュエもこの説を主張した。このような考え方の背景には，15世紀ころから権力基盤を失いつつあった封建領主や貴族たちと，新興勢力として勃興してきた市民階級との確執があった。そのような社会構造の変化の中で，没落しつつある封建勢力に対抗しつつ，国王を中心とした国家建設のためには，国王の権力を服従すべき絶対的なものとする必要があった。

また，[H]は財務総監として[K]を起用したが，この人物が唱えた重商主義②によってさまざまな政策が実行された。その中には，ブルボン朝の最初の王となった[L]が1604年に設立したフランス東インド会社の再建も含まれている。同社は1664年に再建された後，フランスもイギリスと同様にモルッカ諸島には進出できなかったものの，ポンディシェリやシャンデルナゴルを拠点にインドの経営を強

化した。

フランス東インド会社が再建された17世紀のインドは，チンギス=ハンの血統を受け継ぐとされるバーブルによって建国された［ M ］による領土拡大がみられたものの，18世紀に入るとヒンドゥー教徒やシク教徒が不満を強め，さらにはイランのデリー侵攻などから，この巨大帝国は存亡の危機に瀕していくというまさに激動期にあった。

③このような帝国の混乱に乗じ，英仏両国はインド各地で自国の勢力拡大を競い激しく対立した。そのような状勢下でフランス総督デュプレクスは，イギリス東インド会社との軍事的衝突を強めていった。

また，英仏両国の勢力争いは，インド以外でも激しくおこなわれたが，17世紀から18世紀にかけて④アメリカ大陸やアフリカ大陸にも両国の抗争は及び，奴隷貿易を利用するなど深刻な問題を引き起こした。

【設問Ⅰ】 本文中の［ A ］～［ M ］内に入るもっとも適切な語句を**記述解答用紙**に記入しなさい。ただし，［ B ］と［ M ］には国名，［ C ］，［ D ］，［ H ］，［ K ］，［ L ］には人名が入る。

【設問Ⅱ】 下線部①～④に関する以下の問の答えを，**マーク解答用紙**にマークしなさい。

問1 下線部①について，［ H ］による**絶対王政の国家観を表現した言葉とされるものを1つ**選びなさい。

(a) 「王は君臨すれども統治せず」

(b) 「世界理性が白馬にまたがってやってくるのを見た」

(c) 「現代の大問題は言論や多数決ではなく，鉄と血によって解決される」

(d) 「朕は国家なり」

問2　下線部②について，重商主義政策に関する記述で**誤っているものを1つ**選びなさい。

(a)　絶対王政の政治的基盤である官僚制度と常備軍を維持するために膨大な資金が必要であったため，財源確保のための経済政策として重視された。

(b)　金や銀こそが富の源泉であるとする重金主義にしたがって，各国は海外植民地での鉱山の開発を競い，他方で貴金属の輸出制限を促進した。

(c)　輸出のための商品開発が急務となり，毛織物や武器などを海外植民地からの収奪によって手っ取り早く確保しようとしたため，国内産業の育成を怠り，資本主義の確立を阻害する要因となった。

(d)　貴金属や商品作物の供給源と市場を求めて，ヨーロッパ以外に植民地を設けるなど，各国が世界商業の覇権を競った結果，重商主義戦争と揶揄されるほど植民地を舞台とするヨーロッパ各国間の抗争が続いた。

問3　下線部③の時期に生じた事件に関する記述で**誤っているものを1つ**選びなさい。

(a)　マリア=テレジアのオーストリア継承問題からヨーロッパで勃発した戦争は，マリア=テレジアの即位を承認することを取り決めたアーヘンの和約をもって終結したが，この戦争は英仏東インド会社の対立・抗争を強める原因の一つとなった。

(b)　南インド東岸地帯において3次にわたり英仏が軍事衝突した。このカーナティック（カルナータカ）戦争に勝利したイギリスは，ますますインドでの勢力を拡大し，南インドの実質的な支配権を確立することに成功した。

(c)　クライヴ率いるイギリス東インド会社軍は，プラッシーの戦いにおいてベンガル地方王侯（太守）と結託し，フランスに勝利することによってインドでの勢力を拡大することに成功した。

(d)　バクサール（ブクサール）の戦いに勝利したイギリスは，徴税権や行政権を獲得するなど東インドの実質的支配者となり，それと同時にイギリス東インド会社もインドの土地と人民に対する植民地統治機構としての役割が強まった。

問4　下線部④について，奴隷貿易に関する記述で**誤っているものを1つ**選びなさい。

(a)　アフリカにおける奴隷貿易は，中世以来東海岸でムスリム商人によっておこなわれてきたが，16世紀以降は，ポルトガルやフランスなどがアメリカ大陸の植民地で労働させるため西海岸の住民を奴隷にした。

(b)　西アフリカでは，ヨーロッパ人と奴隷貿易をおこない国家財政の基盤としたベニン王国が現れた。この王国は，奴隷狩りをおこないアフリカの伝統社会を壊す一方で，アメリカ大陸への奴隷供給基地となった。

(c)　17～18世紀ころ，ヨーロッパの武器や雑貨と交換したアフリカの奴隷をアメリカ大陸に輸送し，さらにアフリカの奴隷と交換した砂糖・綿花・タバコをヨーロッパに持ち帰るという三角貿易のルートができあがった。

(d)　17世紀半ば，カリブ海の英仏植民地で砂糖プランテーションが急増するが，労働を担ったのは先住民（インディオ）であった。しかし，重労働や伝染病などから彼らが激減したため，労働力不足を補う必要が生じた。そこで，アフリカからの奴隷ではなく，ヨーロッパからの白人の移民労働者が年季奉公人として雇われた。

III　次の文章を読んで，下記の設問に答えなさい。(32 点)

16 世紀以降，大軍を率いたオスマン帝国は，何度かにわたり西ヨーロッパへの進出を試みている。最終的にこの帝国の軍隊は，厳しい冬の到来や予想していなかった相手方の援軍の参戦などによって撤退を余儀なくされたが，それでもこの時に非キリスト教国がキリスト教諸国に与えた大きな脅威は，のちのちまで強い影響をもつことになる。

このオスマン帝国侵攻で一時包囲され，陥落寸前の危機にあった都市で，ヨーロッパ全体の耳目を集めるような巨大なイベントが開催された。それは，1789 年以来内側からの混乱や内戦の続いていたヨーロッパに，新しい秩序を確立するための話し合いであった。

その会議にはイギリスからカッスルレー，フランスからは [A]，プロイセンからは [B] などの辣腕で知られた臣下たちが次々に参加している。全体の進行をとり行ったのは，当時はオーストリアの外相であったメッテルニヒである。

①観光と息抜き，宴会やコンサートなどを十分に交えた長時間にわたる審議と議論のすえ，この参加者の一人が提唱した「正統主義」が各国の君主たちによって絶大な支持をうけた。これはやがてこの会議の基本原則として採用され，最終的には [C] としてまとめられた。

それによると，それまで西ヨーロッパ世界において長い間中心的な役割を演じ，キリスト教諸国を束ねてきた [D] の復活は，認められず，その領土のかなりの部分で連邦をあらたに構成することになる。フランスではブルボン家が復位をはたし，イギリスはオランダから [E] を獲得し，オランダはこの植民地を失った代償として [F] を手に入れることになる。オーストリアは [F] を失った代償として，北イタリアのロンバルディアと [G] を獲得することになる。

とはいいつつも，この「正統主義」という考え方の根本には，20 世紀におけるヨーロッパ共同体にまでつながるようなゆるやかな共通感情が連綿と流れており，ほぼ時期を同じくしてロシア皇帝アレクサンドル 1 世の提唱で結成された [H] などにもこの考え方の結実をみることができるだろう。

他方このような領土の分割や配分は，フランス革命によって当時のヨーロッパの

国々や諸地域にひろまっていった自由主義やナショナリズムなどの考え方を反映していなかった。そしてその際に行われた法制度や教育制度の改革によってもたらされた規範もまた拒否・否定されることになった。その結果，もっぱら君主を中心とした，ナポレオン1世が登場する以前の制度が復古することになる。

そのためにまもなくヨーロッパ各地でさまざまな抵抗運動がおこる。ドイツの大学都市イエナにおいては学生を中心とした［ I ］が結成される。イタリアではピエモンテやナポリで秘密結社である［ J ］が反対運動をおこし，ロシアでもデカブリストらによる反乱という形で，反動的な体制に強烈な政治行動をしめすことになった。

もっともこれらのさまざまな運動は，ただちに強権と強圧な姿勢の反動体制によって弾圧され，鎮圧された。

このようにして一見穏やかな「平和体制」が出現し，それが当時の市民生活にも大きな影響をあたえることになる。例えば芸術や文化の分野では，形式性や調和の美しさを重んじる古典主義に対抗して出現した，個性や感情を重んじる［ K ］がある。これは理性や進歩を重視する啓蒙主義への反発もあり，未来をではなく，もっぱら過去の世界，中世の世界をたたえる方向をめざすことになる。

こうして一連の解放運動の動きは，息の根を止められたかのように見えるが，1822年にギリシアが独立を宣言する事件がもちあがる。

この自由と独立を求める戦いは，②1827年の三国艦隊によるナヴァリノの海戦で，ようやく決着がつくことになる。これはオスマン帝国がエジプトの協力を得て，キオス島の虐殺事件などを通じ徹底的にギリシア人の弾圧を行った中での独立運動であった。画家の［ L ］は，この島における虐殺の模様を劇的な表現を用いてぞんぶんに描いている。また『チャイルド=ハロルドの巡礼』の作者である詩人の［ M ］は，義勇軍としてこの戦いに参加し，病死した。この戦争の勝利によって，長い間異民族の支配下にあり，独立と解放を求め続けてきたギリシアの政治的な統一が急速に達成されることになる。

③以上のようなことはヨーロッパの内部には多くの矛盾を抱えつつも，たとえばオスマン帝国のような外部世界からの攻撃に対しては，すみやかに団結するというヨーロッパ世界の典型的な反応が19世紀において具体化した例である。そしてその考え

方の中心には強く宗教的な価値観が横たわっている。それは同時にギリシアこそが西欧世界の源，西洋文明の故郷であるという多くのヨーロッパ人がもっている意識と深く共通する考え方でもある。

【設問Ⅰ】 上記の文章の [A] ～ [M] 内に入る最も適切な語句を，**記述解答用紙**に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～③に関連して，以下の問に答えなさい。

問1 下線部①で，参加した様々な国の利害がなかなか一致せず，多くの時間と労力を費やした。この紛糾を風刺した，当時の有名な言葉を**記述解答用紙**に記入しなさい。

問2 下線部②で，ギリシアの独立を支援し，トルコ・エジプトの連合艦隊を撃破した三国の名前をすべて**記述解答用紙**に記入しなさい。

問3 下線部③で，イスラームの帝国は19世紀においても領土と民族問題を巡って様々な干渉を諸民族に対して行っていた。この民族対立や宗教間の抗争は，国際紛争の新たな要因となっていたわけだが，こうした国際対立をヨーロッパ諸国側は，何と呼んでいたのか，漢字四文字で**記述解答用紙**に記入しなさい。